

ものづくり、ガラパゴス化打破へいまがチャンス

「いまが日本でのものづくりをゼロから見直すいいチャンスだ」と語るトリプルエーマシンの石戸克典社長。粉体機器・技術のコンサルティングを手掛け、日本と米国シカゴの拠点を往復する。米国では日本のように機器メーカーがトラブルがあったらすぐ来てくれ丁寧なアフターサービスをすることはほとんどなく、購入した会社が自らメンテナンスする。言い換えれば工場運営の最高責任者はメ

パーソン



トリプルエーマシン社長

石戸 克典 氏

2011年9月21日付化学工業日報掲載記事

ンテ部門の技術者であり、機器メーカーにとっては売り切りということになる」。機器設計のコンセプトがまったく異なることになり「世界の趨勢はいま紹介した米国流であり、この業界も日本だけがガラパゴス化している」として「現地（輸出先）が何を望んでいるのかよく聞き取り、それに見

合ったものづくりをする必要がある」とする。とはいえ「日本の技術や機器類は世界のトップレベルにあることは事実で、国内市場が萎縮するなかどうしても海外に目が向くとすれば、価格競争力のあるものを提供して勝負することになる」。これを反映してか「いまマーケティングにつ

価格競争力でこそ勝負

いての経営相談が増えており、この2カ月で日本の粉体機械メーカー3社とマーケティング契約を結んだ。いずれも米国に粉体機器を売り込みたいとするメーカーだが、多くはいきなり自ら駐在員を置くわけにもいかないのが現実。「米国シカゴの現地パートナーの力を活用して、当社がマーケティングサービスを提供する」が、逆に海外からの粉体機器の直接購入についても支援する。ただ海外勢にとっては細かいことを要求する日本市場はハードルが高いようだ。